

◎旗振支部 1月23日(土)開催
 (市民山の会中止に伴う支部企画)
 「三木城址と三木合戦の史跡を歩く」

林 洋治

早春の三木、当日は気持ちよく晴れ渡り、史跡めぐりの最適な日和。神鉄恵比寿駅～平井山本陣跡・竹中半兵衛墓～慈眼寺～三木城址を訪ねる。神鉄恵比寿駅(9:00)に集合し平井山へ。



恵比須駅前にて参加者 19 名

30分ほどで平井山麓、秀吉の懐刀であった竹中半兵衛のお墓へ。半兵衛は戦陣中に亡くなり、その墓を地元の人たちが大切にお守りしたとある。墓のすぐ裏山が秀吉の本陣跡平井山。

当初、秀吉は三木城を簡単に落とせると踏み、秀吉単独軍で向かったが、東播の連合軍に完敗し、命からがら姫路へ逃げ帰った。むやみに戦わず、信長の援軍を頼み4万の兵で三木城の包囲網を布き、ここ平井山が本陣。以来22カ月、兵糧攻め。籠城の三木城はもちろんのこと、攻める方も野営で大変だったろう。と、案内板を観ながら学ぶ。



平井山主郭跡及び主郭から三木城址を望む



次に向かったのが古刹慈眼寺。田んぼのなか小一時間ほど。田のあぜ道は草が芽吹き、イヌ



フグリの花も。途中珍しい美囊川にかかる潜水橋を渡る。



青き踏む
 関の声聴く
 古戦場

慈眼寺は曹洞宗の古刹で江戸幕府の庇護を受け格式の高い寺。境内には紅葉が多く、紅葉寺としても有名。是非、秋に訪ねてみたい。慈眼寺裏山も三木城包囲網の一角で付城が置かれたとある。また、不思議なことに鼠小僧次郎吉の墓がある。明治時代住職が東京から分骨したとのこと。お墓を削ってお財布に入れておくとご利益があると信じられ、今では削られないよう保



護され残念。

11時半、慈眼寺のお参りを終え三木城址へ向かう。途中、三木から有馬に向かう湯の山街道を通る。戦の兵糧を運ぶため、また負傷者を有馬で湯治させるため秀吉が整備した。



今でも古い家並が続くレトロな道。

12時半、三木城址着、着くや否や腹が減っては戦ができぬ。まずは昼食タイム。昼食後、同地にある碑や案内板の他、近くの歴史資料館に足を運び三木の歴史、三木合戦の詳細なことを学ぶ。長期間の兵糧攻めで場内では多くの餓死者が出るなど悲惨な状況が続き、ついに城主長治は、一族の自決と引き換えに家臣や領民の助命を条件に降伏。

秀吉は快くこれを受け入れ、城内に酒や肴を送る。城内では、将兵や兵卒を集め別れの宴を張り、情を尽くして別れの言葉を述べた。時は天正8年正月17日、長治23歳の春。新暦で言えばこのウォーキングと同じ2月半ばの頃だったろうか。梅の花も満開だったに違いない。ここで一句。

梅香る別れの宴
三木城址



長治公の辞世の詩

「今はただうらみもあらし諸人の
いのちにかはる我身と思えば」



長治公とともに

戦い終わり荒廃した三木の街の復興に秀吉は徳政を布き、産業の発展に寄与したとある。その一端が三木金物として全国的にも有名になっている。三木市のことに少し詳しくなったかな？街の歴史を学べば街を見る目も変わり、見知らぬ街の街歩きも楽しくなる。



帰りは三木城址のすぐ下にある神鉄上の丸駅。時刻表を見ていなかったが、昼間1時間に2本しかない電車が我々の到着に合わせてように駅に入ってきた。また、この車両には誰も乗ってなかったので我々の貸し切り状態で帰路に就く。

